

健康 ぷらざ

メニエール病

—内耳からくるめまい・難聴—

名古屋大学大学院医学系研究科頭頸部・感覚器外科学耳鼻咽喉科 教授 曾根 三千彦

企画：
日本医師会

No. 562

症状と、その原因

メニエール病は、誘因なく10分から数時間持続するめまいを繰り返し、難聴、耳鳴り、耳閉感などの症状を伴う疾患です。内耳には、聞こえに必要な^{かぎゅう}蝸牛と、身体の平衡を保つために必要な前庭・三半規管があり、その蝸牛の中の内リンパ腔が拡張してむくんだ状態（内リンパ水腫）になって症状を起こします（図）。内リンパ水腫が発症する原因は不明ですが、リンパの増加や吸収障害が関係しています。

ストレスによりリンパを溜めるホルモンが増加することも誘因とされています。

一方、頭を動かした時に感じるグルグルしためまいは、前庭にある耳石が剥がれ落ちたことにより生じる良性発作性頭位めまい症で、メニエール病とは異なります。

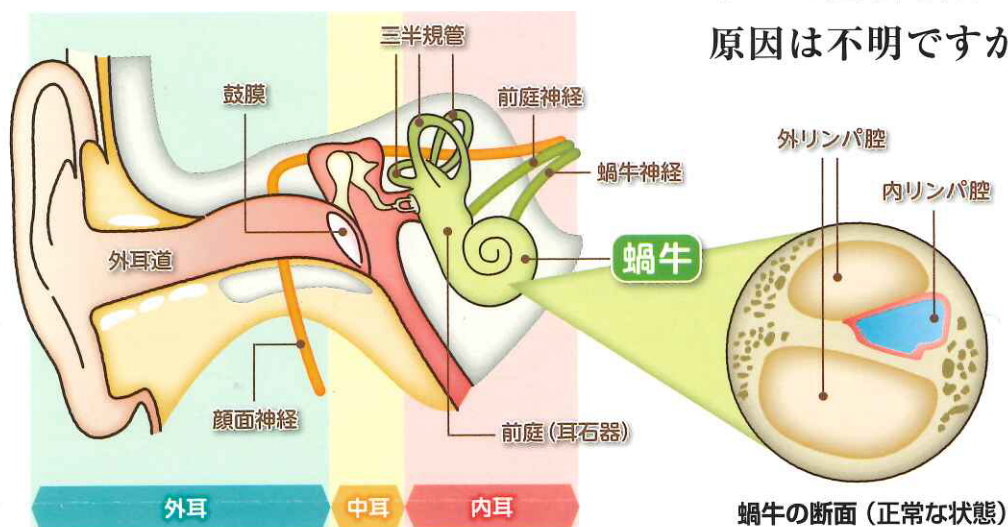


図 耳の構造

検査と診断

聴力検査により低音を中心に聞こえにくくなっていること、平衡機能検査により眼振*の確認やバランス機能の低下を調べ、さらに内リンパ水腫があるかを推定する検査を行い、診断します。最近では、造影剤を用いたMRI撮影で内リンパ水腫があるかを見る検査も行われています。

*眼振：眼球が痙攣したように動いたり揺れたりしている状態。

治療と対応

めまいや難聴が起ったら、耳鼻咽喉科医の診察を受けてください。薬剤の内服や点滴で治療しますが、改善がみられない場合には、内リンパの排出を促す中耳加圧治療も試みられています。メニエール病は日常生活の過ごし方に注意が必要な病気です。減塩や、十分な水分摂取、散歩などの有酸素運動を心がけ、ストレスの軽減に努めましょう。耳閉感やふらつきを感じたら無理をしないことが大切です。



日本医師会ホームページでは、健康ぷらざのバックナンバーがご覧いただけます。



日医
バーコード読み取り機能付き
携帯電話もしくはスマートフォン
でご利用になれます。